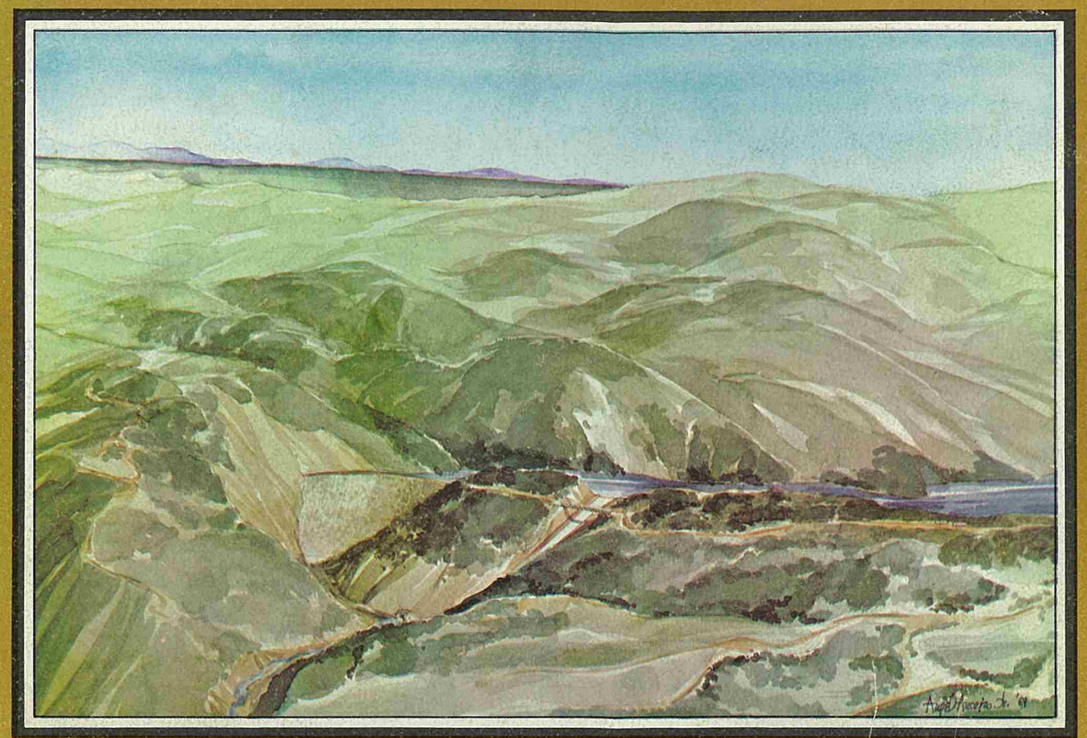


（福地ダム完成図）

本　社　那覇市字安謝664の2番地

総裁室	8—4536	石川浄水場	9—287256
副総裁室	8—1720	タイベース〃	9—41355
総務課	8—8403	天願〃	9—52272
経理課	8—7926	桑江〃	9—38256
工務課	8—4075		

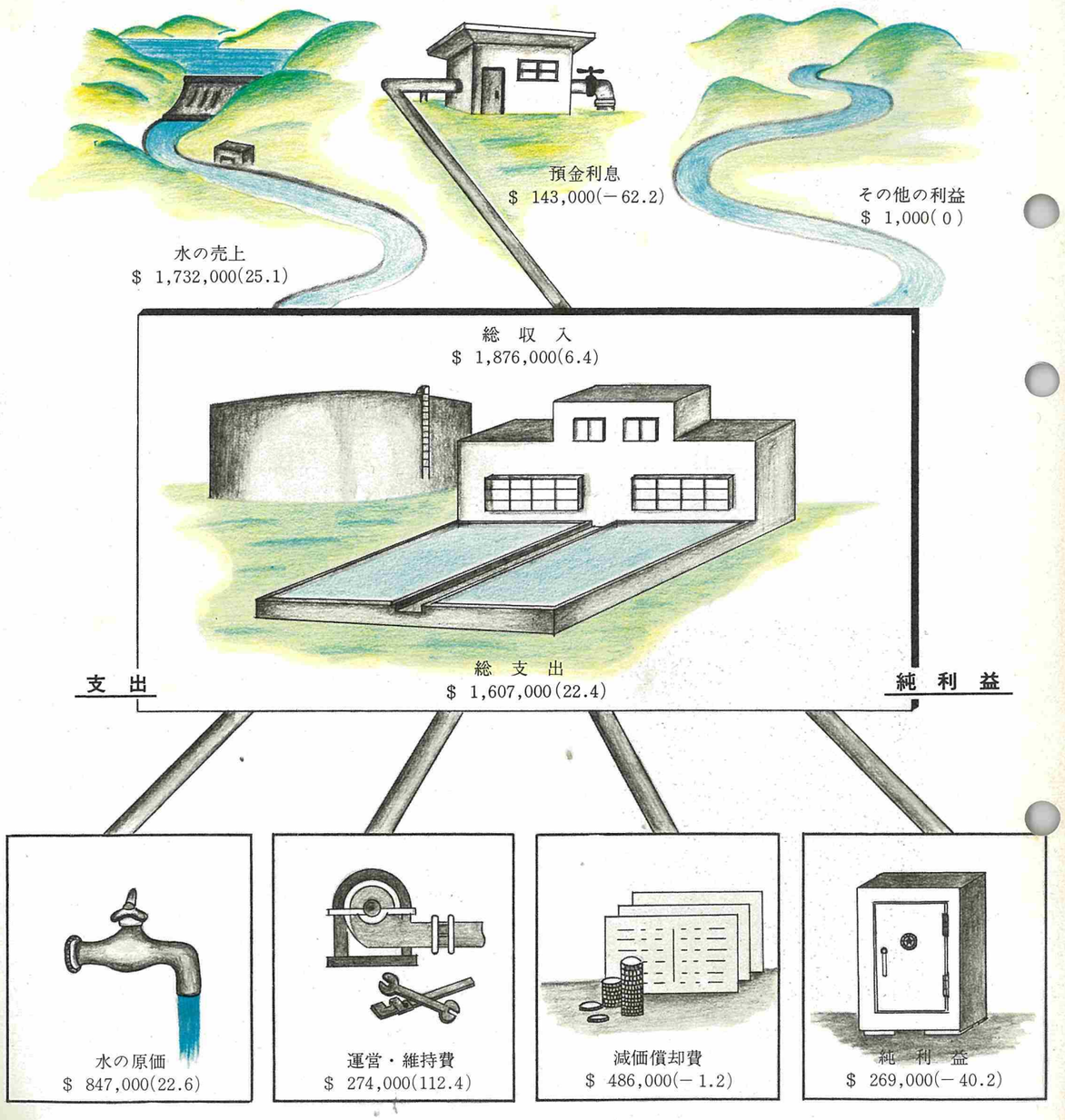
1969会計年度

年次報告書

（福地渓谷 — ダム建設地）

琉球水道公社

1969会計年度概観



注：(カッコ　) 内の数字は対前年度比率

琉球水道公社

1969

年次報告書

(自1968年7月1日　至1969年6月30日)

琉球列島米国民政府
民政官　スタンリー S. カーペンター

目　次

総裁の挨拶…… 2
理事・理事代理…… 3
公社新社屋…… 4
公社の機構図…… 5
概　要…… 6
1969会計年度の諸活動…… 8
全島統合上水道一覧……10
将来の展望と計画……13
財務回顧……15
比較貸借対照表……16
比較損益及剰余金計算書……17
財務諸表脚注……18
監査報告書……20
1969会計年度概観……フロント・カバー(裏)
ハイライト……バック・カバー(裏)

総裁の挨拶

1969会計年次報告書をここに刊行できますことは私の喜びとするところであります。

本年は当公社にとりましては創立第10周年にあたり、特筆すべきこと、して石川浄水場の完成をはじめとする本島北部の送水管の敷設やポンプ場等の竣工があげられます。また、琉球列島における水道事業に対する住民の理解と協力を促す趣意で、公社は初の試みとして“全琉水道週間”を琉球政府及び18関係市町村の協力のもとに、1968年９月に開催いたしました。

公社は豊富な飲料水と産業開発用水の供給にたゆまず努力をつゞけて参りましたが、本年は特に北部水源の開発に主力を傾注いたしました。目下建設中の福地ダムは公社最大のダムで、1969年５月に着工し、1972年の完成時には97億ガロンの貯水、一日平均3,300万ガロンの取水が可能であります。更に、公社の目下の計画では既存の西海岸原水本管に加えて福地ダム、石川浄水場間に新たに東沿岸本管を敷設し、これと並行して石川浄水場の規模をも拡張する予定となっております。

1970年６月に完成する公社新社屋の建築がコザ市において進められていますが、落成の暁には、需要者に対する奉仕を一層充実させる所存であります。

末筆ではありますが、該年度中公社の使命を効果的に遂行できましたことは偏に民政官、理事、並びに多くの関係者各位のご指導、ご鞭撻とさらには米国民政府の財政援助のお陰と心から感謝の意を表する次第であります。

琉球水道公社

総裁 大浜博貞

理事の顔ぶれ

米国民政府公益事業局長
理事長　ハリントン W. コクラン

フォート・バクナー工兵隊長
理事　ビリー H. モリス

琉球政府建設局長
理事　宮　里　栄　一

琉球開発金融公社総裁
理事　照　屋　輝　男

琉球水道公社総裁
理事　大　浜　博　貞

理　事　代　理

ハロルド D. スーサー（工兵隊中佐—ケミカル・エンヂニア）
アルフレッド A. デサント（統合上水道水道部長）
安　里　一　郎（琉球政府建設局土木建築部長）
比　嘉　　寛（琉球開発金融公社調査部長）
宮　良　用　英（琉球水道公社副総裁）

公社新社屋

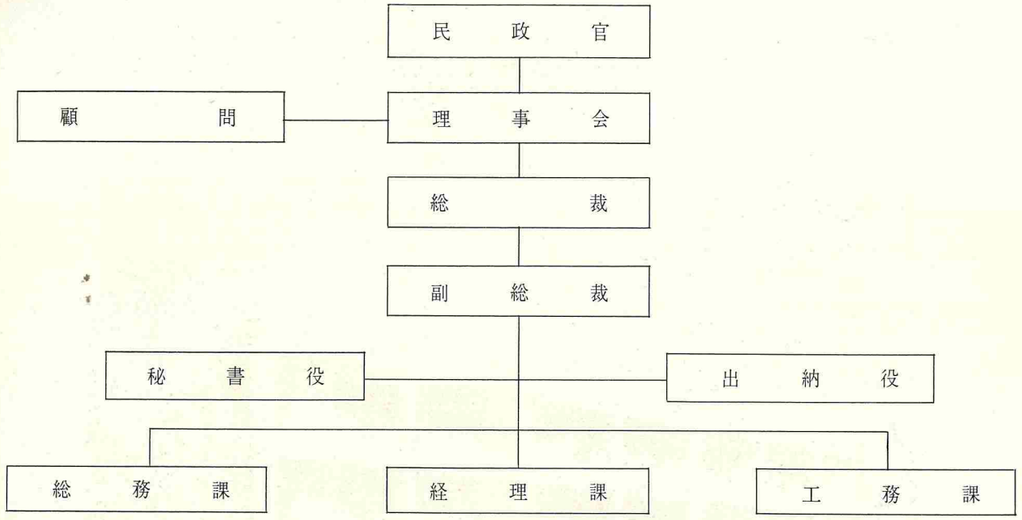
（完　成　図）

位　置：　コザ市山里

起　工：　1969年６月

竣　工：　1970年６月

公社の機構図



役　員

総裁　大　浜　博　貞

副総裁　宮　良　用　英

秘書役　知　念　五　郎

出納役　新　垣　元　助

概　要

設立及び目的

琉球水道公社は、1958年９月４日高等弁務官布令第８号に基づき琉球列島米国民政府の補助機関として設立され、琉球住民の使用と利益及び産業開発に必要な安全かつ充分な水を供給することをその目的とする。

管理及び運営

公社の管理権は民政官によって任命された５名の理事で構成される理事会に付与されている。

日常業務の運営には42名の琉球人職員がその任務にあたっている。

全島統合上水道組織

沖縄住民の水の供給源である全島統合上水道組織は、琉球列島米国陸軍及び琉球水道公社所有の諸施設から成り、1969年６月30日現在、一日平均4,200万ガロン（那覇市泊浄水場生産量を含む）の水を生産している。この中、約$\frac{2}{3}$を那覇市を含む18ヶ市町村に供給し、残る$\frac{1}{3}$を米軍によって消費された。

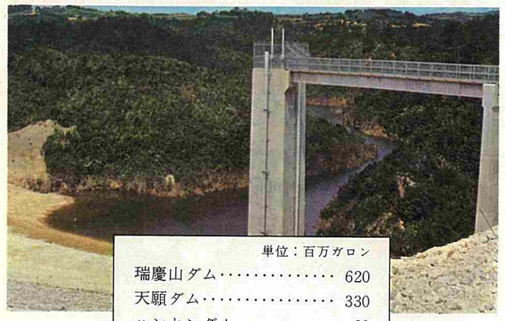
在琉米国陸軍は、琉球水道公社との間に1958年５月に締結した運営協定に基づき、全島統合上水道を運営、推持し、18ヶ市町村及びその他の民需要を満たすに必要な水量を公社に供給している。

1969会計年度には全島統合上水道は、136億ガロン（浄水125億ガロン、原水11億ガロン）の水を生産し、その中86億ガロン（浄水75億ガロン、原水11億ガロン）が公社に給水された。

在琉米国陸軍との運営協定に基づいて、公社の水道技師、水質検査官、ポンプ場操作係、ダム監視人等60名が全島統合上水道組織（在琉米国陸軍）で上水道施設の運営に従事している。これら職員の給与は、統合上水道から公社へ供給される水の原価からまかなわれている。

全島統合上水道主要施設は次頁のとおりである。

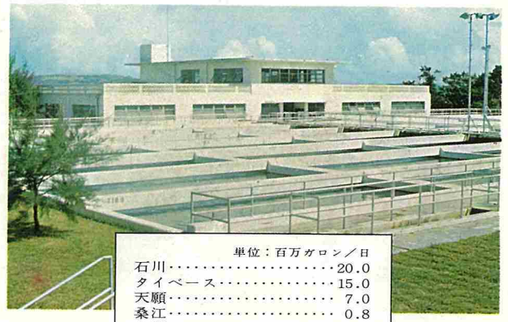
貯　水　池



単位：百万ガロン

瑞慶山ダム	620
天願ダム	330
ハンセンダム	60
平山ダム	40
計：	1,050

浄　水　場



単位：百万ガロン／日

石川	20.0
タイベース	15.0
天願	7.0
桑江	0.8
与座	0.7
ポーロ・ポイント	0.06
泊（那覇）	6.0
計：	49.56

送水ポンプ場

単位：百万ガロン／日

石川	37.5
タイベース	26.0
天願	10.0
与座	4.3
桑江	3.2
計：	81.0

配　水　池

単位：百万ガロン

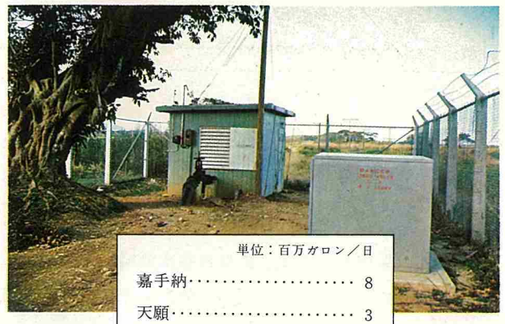
石川	5.0
タイベース	2.0
天願	1.5
登川	0.2
計：	8.7

貯水タンク

単位：百万ガロン

上間	10.0
大謝名	5.0
瑞慶覧第一	5.0
瑞慶覧第二	1.5
読谷	2.0
南上原	2.0
その他	21.9
計：	47.4

打　込　井　戸



単位：百万ガロン／日

嘉手納	8
天願	3
登川	2
計：	13

1969会計年度の諸活動

概　括

本島北部及び中部の水源開発は継続して行なわれて来たが、今会計年度は480万ドルが施設拡張に支出された。北部水源の開発によって、源河、平南、大保、福地の各河川には、ポンプ場が設置され、これら河川から原水を取水している。福地川から石川浄水場へは名護を廻る西海岸沿いに原水本管の敷設をみ、原水輸送を容易ならしめるべく、途中、許田増圧ポンプ場が建設された。該計画工事は当会計年度中にすべて完成し、一日約 600 ～ 1,600万ガロンが石川浄水場へ送水されている。この他石川浄水場への送水を一日400～600万ガロン増配すべくハンセンダム敷地に新しいポンプ場の建設が1968年12月に着工された。

琉球水道公社は、貯水タンク、水道本管の拡張及び新設、群井戸の開発等に加えて増圧ポンプ施設の改設を行ない、中南部諸施設の機能改善に努めた。

職　員

1969年 1 月 6 日づけで、前琉球政府総務局渉外広報部長の宮良用英が公社副総裁に任命された。

公社施設及び諸活動の拡大に伴う作業量の増加に対処できるよう人事が強化され、1969年 6 月現在、公社の職員数は 101 名となり、前年同期にくらべて63%の人員増加となった。

公社は、また、職員の資質向上を目指して、積極的に諸人事計画を推進した。沖縄地方生産性本部、経営コンサルタント及び沖縄経営者協会による種々の経営コースに14名の職員を参加させ、また日本水道協会開催のゼミナールには職員 2 名が参加した。職員がすすんで時間外の講習を受講できるよう、必要経費を公社負担とする訓練計画も実施している。

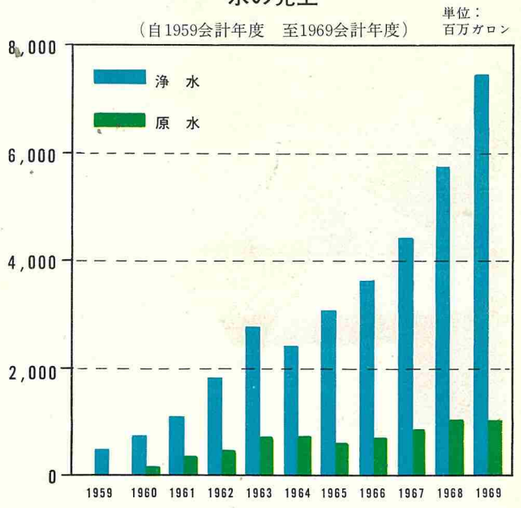
対外活動

公社の諸活動、計画、施設等を住民に周知することを主眼として、1968年 9 月第 1 週には、琉球政府、沖縄水道協会、関係各市町村と共催で、初の“全琉水道週間”を開催した。当水道週間中には、公社の諸施設（石川浄水場、天願、瑞慶山両ダム、その他）が一般公開され、中南部18市町村から凡そ 900 名の見学者で賑わった。

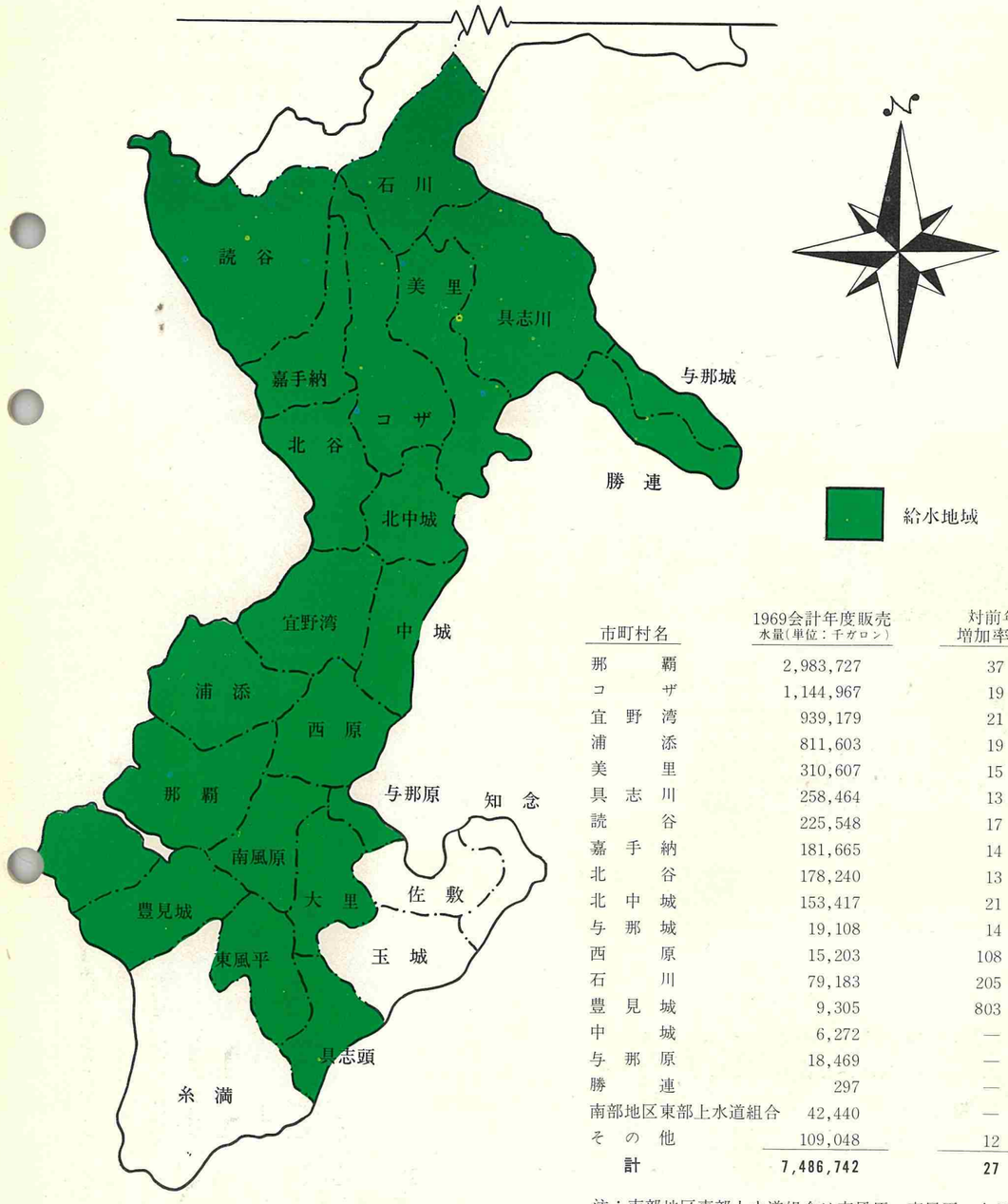
水の売上

1969会計年度公社浄水の売上量は75億ガロンを記録し、主な販売先は18ケ市町村（南部地区東部上水道組合を含む)、1 貸住宅業者及び28の個人需要者となっている。これは前年度に比較して、27%の増加となった。この他、公社は主として、那覇市へ11億ガロンの原水を販売した。下図は1959会計年度から1969会計年度までの公社売上量の増加推移を示すものであり、次頁の地図は公社の給水地域と水の売上の内訳である。

水の売上
（自1959会計年度　至1969会計年度）



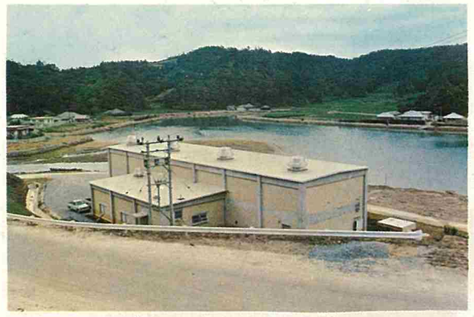
琉球水道公社給水市町村及販売水量



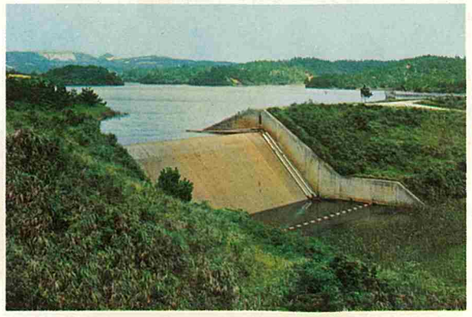
市町村名	1969会計年度販売 水量（単位：千ガロン）	対前年 増加率（%）
那　覇	2,983,727	37
コ　ザ	1,144,967	19
宜 野 湾	939,179	21
浦　添	811,603	19
美　里	310,607	15
具 志 川	258,464	13
読　谷	225,548	17
嘉 手 納	181,665	14
北　谷	178,240	13
北 中 城	153,417	21
与 那 城	19,108	14
西　原	15,203	108
石　川	79,183	205
豊 見 城	9,305	803
中　城	6,272	—
与 那 原	18,469	—
勝　連	297	—
南部地区東部上水道組合	42,440	—
そ の 他	109,048	12
計	7,486,742	27

注：南部地区東部上水道組合は南風原、東風平、大里及び具志頭の各地域を含む。

全島統合上水道一覧



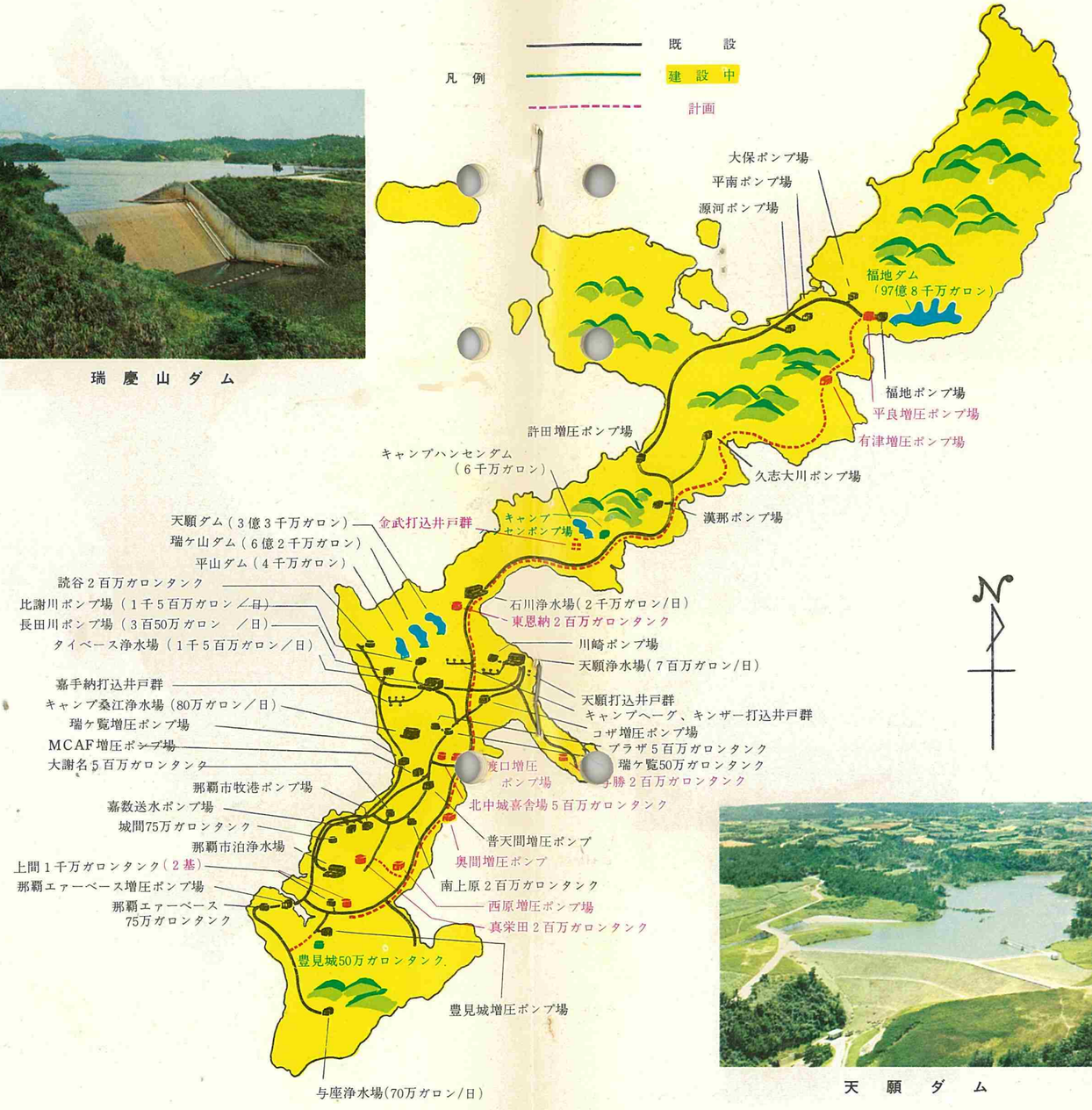
許田増圧ポンプ場



瑞慶山ダム

比謝川ポンプ場

川崎ポンプ場



石川浄水場

タイベース浄水場

天願ダム

天願浄水場

建設工事

当会計年度中に14の建設工事が竣工し、 230万ドルにのぼる６つの工事契約が締結された。1969会計年度末現在、７つの主要工事が進行中である。

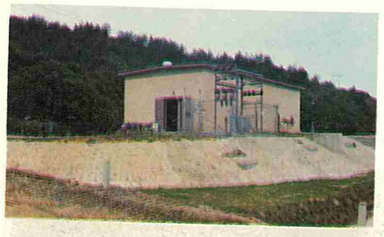
完成した工事

1. 瑞慶山ダムの改設 （1968年７月）
2. 平南ポンプ場 （1968年８月）
3. 源河ポンプ場 （1968年８月）
4. 宜野座村大川―大宜味村大保原水本管（1968年９月）
5. タイベース送水ポンプ場の改設 （1968年９月）
6. 中部送水施設の第Ⅰ期及び第Ⅱ期工事（1968年10月）
7. 読谷南部送水本管及び 200万ガロン貯水タンク （1968年10月）
8. 天願チエックダム （1968年11月）
9. 大謝名500万ガロン 貯水タンク （1968年11月）
10. 大保ポンプ場及び大保福地送水管 （1968年12月）
11. 安慶名、ホワイトビーチ送水管 （1969年1 月）
12. 天願、コザ送水管 （1969年３月）
13. 中部送水施設第Ⅰ期工事 （首里フィダーラインの延長） （1969年５月）
14. 許田増圧ポンプ場 （1969年６月）

建設中の工事

1. 打込井戸の開発（第Ⅲ期工事） 86%
2. 天願送水ポンプ場の改設 95%
3. キヤンプ、ハンセンポンプ場 24%
4. 豊見城送水管 92%
5. 豊見城増圧ポンプ場及び 50万ガロン貯水タンク 60%
6. 福地ポンプ場 97%
7. 福地ダム第Ⅰ期工事 0

完成した工事

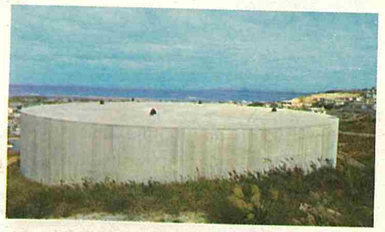


← 大保ポンプ場

平南ポンプ場 →

← 源河ポンプ場

大謝名500万ガロン 貯水タンク →



建設中の工事

← 福地ポンプ場

天願送水ポンプ場 →

将来の展望と計画

沖縄の水需要は先に示したとおり、上昇を続け、前年度ピーク時の一日4,500 万ガロンに較べて、当会計年度は一日 5,100万ガロンに達した。

過去の需要動向と将来の予想需要は下図のとおりである。公社は、中南部の人口密集地帯における需要上昇に対処すべく次の計画を不可欠とし、実施した。

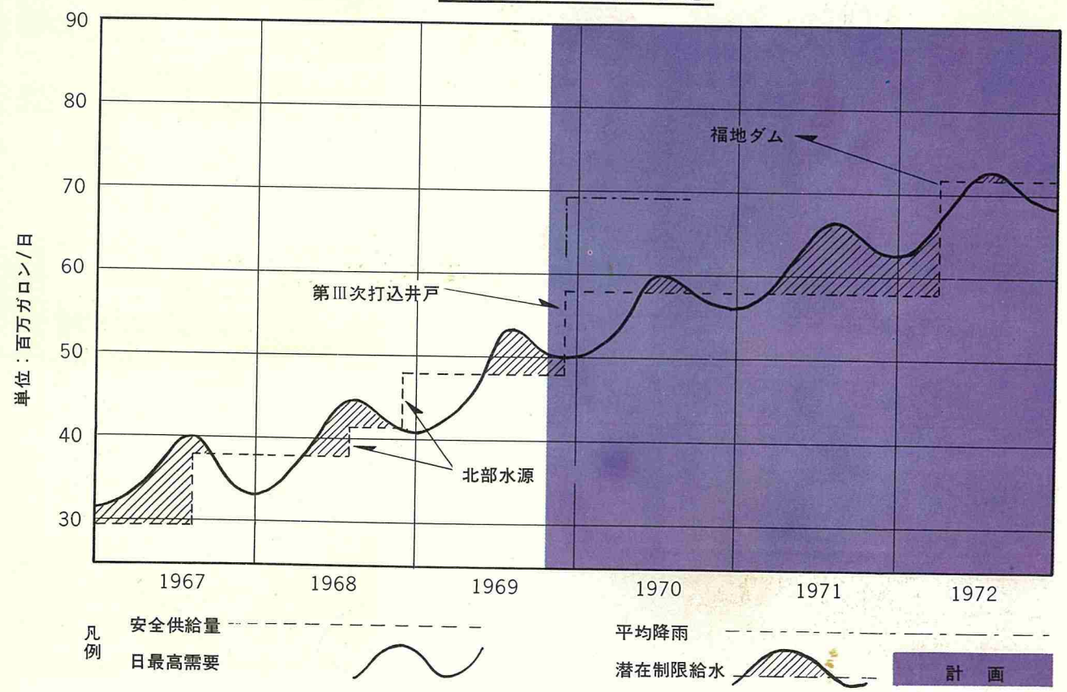
即ち、1969年６月に 140万ドルを投じて着工した福地ダム第Ⅰ期工事が、1970年４月に完成し、引続き 880万ドルの経費で第Ⅱ期工事を開始し、1972年４月には竣工の予定である。更に、石川浄水場の機能を高め、那覇への送水量を増すため東海岸沿いに福地ダム石川浄水場間の原水送水管と石川浄水場から那覇第２号 1,000万ガロン貯水タンク間に浄水送水管を敷設するための計画を進めている。

1970会計年度には、米国民政府一般資金から 880万ドルと、公社売上利益金からの 120万ドルを下記の計画に対し計上した。

記

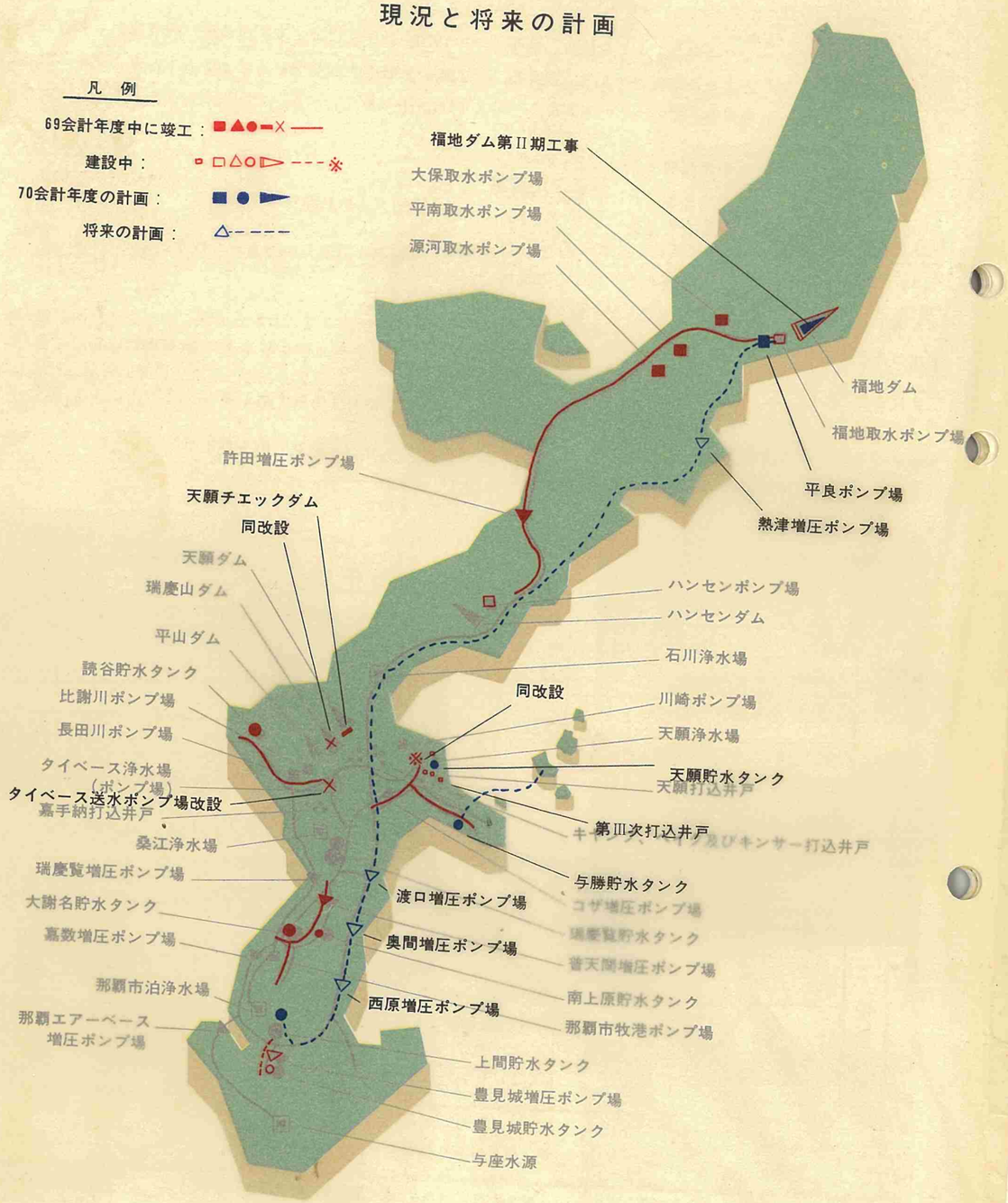
1. 福地ダム第Ⅱ期建設工事
2. 那覇第２号 1,000万ガロン貯水タンクの建設
3. 与勝200 万ガロン貯水タンクの建設
4. 天願 150万ガロン貯水タンクの建設
5. 平良ポンプ場第Ⅰ期工事（設計）
6. 打込井戸の開発（第Ⅳ期工事）
7. その他

水需要の実績と予想



全島統合上水道施設図

現況と将来の計画



財　務　回　顧

—概　要—

利益金の減少

1969会計年度における水の売上高は25%の増収にもかかわらず、純利益は、預金利息の落込により40%の減収となった。

当会計年度末定期預金残高及び利息収入を前年度と対比すると下表のとおりである。

	1969会計年度	対前年度 減少額	比率(%)
預金残高	$ 2,037,860	$ 2,193,062	52
利息（定期預金）	$ 143,380	$ 235,038	62

設備投資

琉球水道公社の投下設備資金は、米国民政府一般資金米国陸軍琉球列島割当金及び公社の利益剰余金から拠出された。

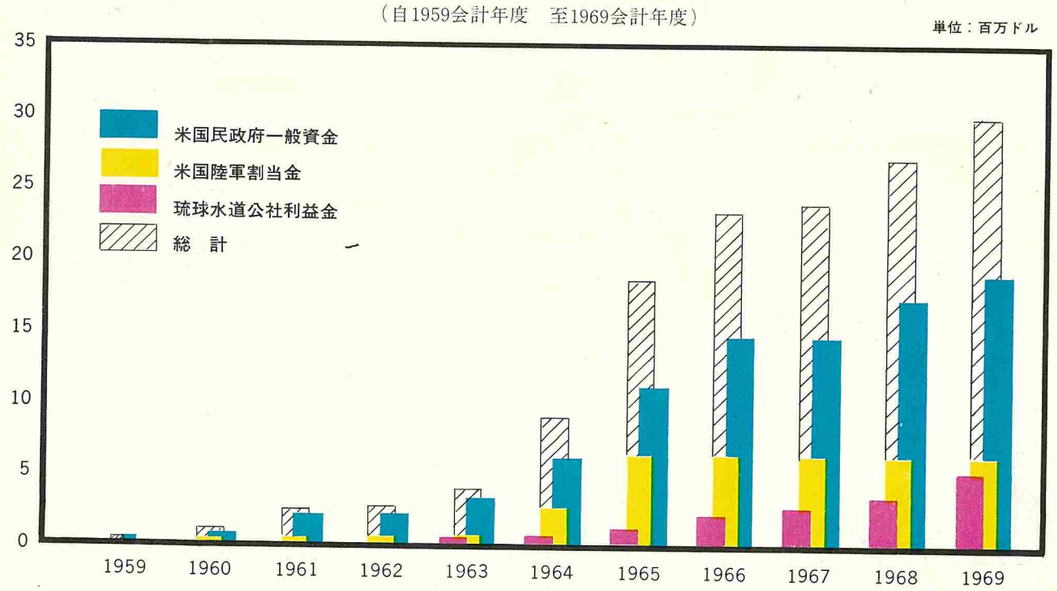
1969会計年度中に、公社が北部水源開発及び中南部水道施設の拡張に費した資金は480万ドル以上にのぼり、その中1969会計年度米国民政府一般資金から150万ドル、前年度繰越一般資金及び琉球水道公社利益金から330万ドルが拠出された。

1959会計年度以来今会計年度までの拠出金の内訳は、各々、米国民政府一般資金1,860万ドル、米国陸軍割当金650万ドル、そして琉球水道公社売上利益金から510万ドルとなっている。なお、民政府一般資金から、更に110万ドルが水道公社に割当てられ、必要に応じて拠出されることになっている

過去10年間における拠出財源別設備投資は、下図のとおり、累増傾向を示している。

資本及び剰余金の累増

（自1959会計年度　至1969会計年度）



琉球水道公社

比較貸借対照表

	6月30日現在 1969	6月30日現在 1968
資産の部		
固定資産：		
固定設備（脚注１）	$ 24,924,948	$ 16,097,855
控除：減価償却引当金	(1,428,513)	(936,246)
建設仮勘定	3,532,292	7,537,206
固定資産合計	$ 27,028,727	$ 22,698,815
流動資産：		
現　　金（脚注２）	$ 2,050,152	$ 4,248,624
売 掛 金	169,283	140,664
未収利息	60,930	290,626
資　　材（脚注３）	126,614	296,309
前払費用	4,677	4,027
その他の資産	1,000	0
流動資産合計	$ 2,412,656	$ 4,980,250
資産合計	$ 29,441,383	$ 27,679,065
負債及び資本の部		
資　　本：		
資　本　金（脚注４）	$ 25,440,452	$ 23,637,558
利益剰余金（脚注７）	3,503,447	3,508,592
資本合計	$ 28,943,899	$ 27,146,150
流動負債：		
買掛金及び未払費用（脚注５）	453,933	508,298
預り保証金	860	865
流動負債合計	$ 454,793	$ 509,163
引 当 金：		
退職給与その他の引当金	$ 42,691	$ 23,752
負債資本合計	$ 29,441,383	$ 27,679,065

財務諸表に添付されている脚注は、この表の必須部分である。

琉球水道公社

比較損益及剰余金計算書

	6月30日終了会計年度 1969	6月30日終了会計年度 1968
売　　上（脚注６）	$ 1,731,990	$ 1,384,432
営業経費：		
売 上 原 価	846,803	690,884
一般管理部門給料	113,969	83,278
事務用品費	16,478	11,085
保　険　料	2,767	1,789
損　害　費	583	3,592
借　地　料	51,844	16,908
社会保険料	2,124	1,588
雑　　費	2,328	2,112
管理部修繕維持費	4,378	3,422
送水管等修繕維持費	3,822	5,612
流量調査費	73,896	0
資 産 損 失	1,568	0
減価償却費（脚注１）	486,132	492,466
営業経費合計	$ 1,606,692	$ 1,312,736
営業利益	$ 125,298	$ 71,696
営業外収益：		
受取利息	$ 143,380	$ 378,419
雑 収 入	1,051	427
営業外収益合計	$ 144,431	$ 378,846
当期純利益	$ 269,729	$ 450,542
過年度損益修正（脚注７）		
加算：購入払戻	86,498	0
減算：過年度流量調査費及び異常損失	(361,372)	(27,630)
利益剰余金純増減高	($ 5,145)	$ 422,912
期首利益剰余金	3,508,592	3,085,680
期末利益剰余金	$ 3,503,447	$ 3,508,592

財務諸表に添付されている脚注は、この表の必須部分である。

琉球水道公社

財務諸表脚注

1969年6月30日

1. 固定資産と減価償却

当該年間における固定資産の増減は次の通りである。

a）取得原価

施設	1968年7月1日現在の残高	増加	減少	1969年6月30日現在の残高
1）原水施設	$ 5,190,340	$ 5,333,764	$ 7,587	$ 10,516,517
2）ポンプ施設	467,909	1,369,150	0	1,837,059
3）浄水施設	3,512,182	29,984	0	3,542,166
4）送配水施設	6,854,407	2,080,989	1,413	8,933,983
5）一般施設	73,017	25,305	3,099	95,223
合計	$ 16,097,855	$ 8,839,192	$ 12,099	$ 24,924,948

b）減価償却引当金

施設	1968年7月1日現在の残高	増加	減少	1969年6月30日現在の残高
1）原水施設	$ 390,907	$ 224,821	$ 7,587	$ 608,141
2）ポンプ施設	105,749	75,798	0	181,547
3）浄水施設	79,530	58,072	0	137,602
4）送配水施設	340,149	136,922	1,413	475,658
5）一般施設	19,911	8,753	3,099	25,565
合計	$ 936,246	$ 504,366	$ 12,099	$ 1,428,513

減価償却費は、総合償却法により、次に示す定額による年率で算出されている。

1）原水施設	2.43%（41年）
2）ポンプ施設	5.95%（17年）
3）浄水施設	1.67%（60年）
4）送配水施設	1.75%（57年）
5）一般施設	12.59%（8年）

各施設の構成要素の変化に伴い、年間総合償却率は当会計年度中に修正された。

2. 現金

1969年6月30日現在の現金及び未収利息は次の通りである。

	現金	未収利息
a）小口現金	$ 200	0
b）当座預金	12,092	0
c）利息つきの定期預金	2,037,860	$ 60,930
合計	$ 2,050,152	$ 60,930

3. 資材及び貯蔵品

1969年6月30日現在の棚卸資産は次の通りである。

a）先入先出法で評価された建設資材	$ 23,852
b）先入先出法で評価された修繕材料	102,762
合計	$ 126,614

4. 資本金

当該年度中に総額1,533,894ドルが琉球列島米国民政府一般資金から繰入れられた。又、その他にキャンプ・ハンセンダム（$269,000）が在琉米国海兵隊から譲渡された。

5. 買掛金及び未払費用

1969年6月30日現在の未払金は次の通りである。

a）ポストエンジニア及びシー・エス・ジーよりの原水、浄水購入金額1969年4、5及び6月分	$ 72,517
b）工事契約者に対する支払留保金	120,711
c）未払建設工事金	103,744
d）1969年6月分の未払給料	30,234
e）材料及び役務に対する未払分	126,727
合計	$ 453,933

6. 売上

当会計年度中の売上は次の通りである。

	使用量（1,000ガロン）	金額
a）浄水		
市町村	7,377,694	$ 1,609,355
小口需要者	109,048	36,578
浄水売上高	7,486,742	$ 1,645,933
b）原水		
那覇市その他	1,099,395	85,883
水の売上合計	8,586,137	$ 1,731,816
c）雑収益		174
売上合計		$ 1,731,990

7. 利益剰余金

当該年度中に生じた損益修正は次の通りである。

a）加　算：

（1）過年度電力料払戻	$ 80,495
（2）原水原価の払戻及びその他	6,003
計	$ 86,498

b）減　算：

（1）過年度流量調査費	$ 342,019
（2）過年度借地料	14,938
（3）計画中止による損失	4,415
計	$ 361,372

8. 税　金

公社はすべての税金が免除されている。

○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○ ○

監　査　報　告　書

琉球水道公社
理 事 会　殿

沖縄那覇
1969年 8 月15日

私は、琉球水道公社の1969年 6 月30日現在の貸借対照表および同日をもって終了する事業年度の損益および剰余金計算書について監査を行なった。この監査に当って、私は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、会計記録の試査ならびにその時の状況に照して、私が必要と認めたその他の監査手続を実施した。

私の意見ではこゝに添付された貸借対照表ならびに損益および剰余金計算書は、一般に公正妥当と認められた企業会計の基準に準拠し、かつ前事業年度と同一の基準を適用して作成されており、1969年 6 月30日現在の琉球水道公社の財政状態、および同日をもって終了する事業年度の経営成績を適正に表示しているものと認めた。

公認会計士　外間完和

ハイライト

北部水道施設の竣工

1968年 9 月 4 日、石川浄水場の完成を祝って、アンガー高等弁務官によってテープ・カットが行われた。

石川浄水場施設の一般公開の一コマ

第 1 回“全琉水道週間”

1968年 9 月第 1 週に初の全琉水道週間が開催された。
係員から説明を受ける施設見学者たち。